

令和4年度 第6回 つくばみらい市総合計画審議会

《令和4年11月22日（火）午後2時30分～ みらい平市民センター 4階》

【出席委員】

スポーツクラブみらい 代表 吉田 多一郎
託児ボランティア ソレイユ 代表 菩提寺 宗子
NPO法人 地球の緑を育てる会 代表 石村 章子
つくばみらい市区会長 代表 松本 譲二
つくばみらい市商工会 青年部 代表 佐藤 武志
つくばみらい市 民生委員児童委員協議会 代表 野村 俊光
つくばみらい市PTA連絡協議会 代表 染谷 武志
つくばみらい市4Hクラブ 代表 坂田 健治
市民公募委員 北島 重司
市民公募委員 阪口 正輝
市民公募委員 坂田 清
市民公募委員 菅谷 翼
市民公募委員 眞塩 敏幸
株式会社 カスミ ビジネス変革本部 SDGs推進マネージャー 伊神 里美
筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授 大澤 義明
筑波大学 システム情報系 社会工学域 准教授 藤井 さやか

1. 開会

事務局：

本日は、第6回総合計画審議会にご出席いただきましてありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今より、会議を開会いたします。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、企画政策課の柴山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、2名欠席と、1名遅れて出席のご連絡をいただいておりますので、現時点での出席者は15名となっております。つくばみらい市総合計画審議会条例第6条第2項に規定されておりますとおり、2分の1以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

また、この会議につきましては、「つくばみらい市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、「公開」とさせていただきますので、ご了承下さい。

それでは、会議に先立ちまして、つくばみらい市総合計画審議会会長 大澤 義明 様からご挨拶を賜りたいと思います。大澤会長、よろしくお願いいたします。

2. 会長あいさつ

会長：

皆さんこんにちは。

総合計画審議会も第6回を迎え、残すところは今日の内容を確認していただいて、次はパブリック・コメントになります。ということで、今回は皆さんに最終確認していただくということと、お考え等を聞きたいと思えます。一人3分程度で後程発表いただこうと思えますので、よろしくお願いします。

事務局：

ありがとうございました。それでは、つくばみらい市総合計画審議会条例第5条第3項の規定に基づき、これからの議事進行につきましては、大澤会長にお願いしたいと思えます。

3. 報告及び議題

会長：

それでは、議長を務めさせていただきますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。それではまず、議事「総合計画素案（修正案）について」事務局から説明願います。

事務局：

総合計画修正案のご説明をさせていただきます。

資料は、事前に配布しました資料3「総合計画 素案」と、本日配布しました参考資料「第5回総合計画審議会 意見及び対応」をお手元にご用意ください。

今回の素案の修正につきましては、素案の基本計画部分を基に意見交換していただいた、第5回審議会のご意見の中から、計画の修正に係るご意見を抽出し、参考資料の右側にございます対応欄のとおり修正を加えさせていただきました。素案の中では、修正箇所を赤字で示させていただいております。

なお、意見交換の中では、より具体的な取組みの提案や課題などもいただいておりますが、そちらにつきましては、市の中で担当課とも共有させていただき、今後の事業や各施策の個別計画の参考とさせていただきます。

それでは、資料3を用いまして、素案の修正について、いくつか抜粋してご説明させていただきます。

資料3の27ページ、28ページをお開きください。

農業に関する施策でございますが、こちらでは、市内産米のPRや消費に関する記述をするべきといったご意見がございました。先日、11月20日の日曜日に、昨年度に引き続いて米コンテストを開催したほか、米のオリンピックとして知られる「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」が令和7年に市内で開催予定となるなど、市でも力を入れているところですので、取組方針等に加えさせていただきました。

続きまして、59ページ、60ページをお開きください。

健康や医療に関する施策でございますが、こちらでは、健康づくりに必要な運動や食育の記載が少ないというご意見をいただいております。取組方針等に運動や食育の内容を加え、キーワードとしても、「適度な運動習慣」を追加させていただきました。

続きまして、69ページ、70ページをお開きください。

人権や多様性に関する施策でございますが、こちらでは、悩んでいる方への相談窓口等の支援や、外国人の方の問題について、記載が必要というご意見がございました。取組方針の中で、外国人の方がより生活しやすくなるよう多文化共生社会の実現に取り組むこと、偏見や文化の違いなどによる悩みを相談できる窓口等の支援を行うことを加えさせていただきました。

3つほど抜粋してご説明させていただきましたが、第5回審議会でのご意見を反映した主な修正箇所につきましては、参考資料の方へ整理させていただきましたのでご確認ください。

その他の修正について、ご説明させていただきます。

少し前のページに戻りますが、資料3の13ページ、14ページをお開きください。

メールでご意見を募りました第4回審議会のご意見などから、基本構想部分についても修正を加えておりますが、その中からランドデザインの変更について、ご説明させていただきます。

まず、14ページの土地利用構想図をご覧いただきまして、前回審議会の素案までは、変更予定箇所の説明を上重ねて表示しておりましたが、今回の素案では変更箇所を含めた図に更新いたしました。拠点としては、福岡工業団地を拡大し、つくばみらいスマートインターチェンジ周辺にも拠点として表示を加えました。圏央道やみらい平市民センターなども追加しています。

また、審議会からご意見をいただいた13ページの説明と14ページの図の関連を分かりやすくした方が良いといったご意見につきましては、お手元の冊子に掲載されているランドデザインでは単に凡例として表示していましたが、地域を表す色の表示や、拠点を表す丸印を13ページの説明部分に合わせることで、より認識しやすくなるよう変更しております。

続きまして、21ページ、22ページをお開きください。

施策体系でございますが、こちらでは、23ページ、24ページに掲載している「つくばみらい市が大切にしたいこと」が、主にどの政策に関連しているのかを示させていただきました。例えば、①の「みらいにつながる好循環なまち」は、農業振興や開発、ふるさと納税といった内容が、「産業振興」「土地利用」「行財政・広報広聴」の政策への関連が特に強いなど、単に4つの項目を掲載するだけでなく、政策との結びつきを示すことで、より具体的にイメージできるようにしたものです。

簡単ではございますが、素案の説明は以上とさせていただきます。こちらの素案は、12月に予定しているパブリック・コメントの資料として、市民から広く意見を募らせていただく予定でございます。その結果を次回審議会においてご報告させていただきます。

この後に質疑をお受けいたしますが、その後に予定している審議会委員の皆様からの意見発表につきましても、簡単にご説明させていただきます。

事前にご連絡しておりますとおり、本日の審議会では、総合計画全体に対するご意見やお考え、今後の運用などに対するご意見など、委員の皆様全員から3分ずつ意見発表をお願いいたします。座席順にお名前をお呼びいたしますので、意見を発表していただき、3分経過の合図としてベルが鳴りましたら、意見をまとめて終了してください。

全員の意見発表が終了しましたら、その後に挙手制での意見発表の時間を設けますので、他の方の意見発表を踏まえてのご意見、3分の時間内で伝えきれなかったご意見等をお話してください。挙手制での意見発表は、時間の合図をいたしませんので、よろしく願いいたします。

それでは、説明は以上でございます。

会長：

ただいま事務局より説明がありましたが、ご意見・ご質問等ございませんか。

A委員：

素案についてですが、前の審議会での皆さんの意見が非常に反映されていて、私は他の会議にも委員として入っているんですけども、かなり建設的・合理的で小慣れた総合計画になっているなと思いました。策定してそのままではなく、実のある内容になっていると感じ、合格点かなと思います。全体的な話は後程述べさせていただきます。

B委員：

沢山出ている意見をしっかりまとめていただいたなと思いました。

21ページ、22ページの施策体系のところを拝見していて、「つくばみらい市が大切にしたいこと」①②③④とあるんですけど、「あれも、これも本気の子育てのまち」というのを大きく頭出しされているのですが、施策との関連をみると、「子育て・教育」の分野にしか丸がついてないのが少し寂しいかなと感じました。子育てを推すところで子育ての施策が関連するのはもちろんなんですけれども、子育ての環境を支えるような「地域コミュニティ」ですとか「生涯学習」なんかも繋がっていくところなので、場合によってはもう少し丸を増やして、子育てのところは色々な分野が連携して力を入れていくような形にされてはいかがかなと思いました。

事務局：

ありがとうございます。

「つくばみらい市が大切にしたいこと」の部分は事務局でも検討させていただいた部分でして、「あれも、これも本気の子育てのまち」の部分は、例えば「スポーツ」を子供たちがするとか、先ほどおしゃっていただいたように「地域のコミュニティ」とか、「体験」とかを考えれば各産業にも結び付くというかたちで、いろいろ広く見るか、絞ってみるかで判断は難しいところではあったのですが、あまり多く丸がつきすぎると、重点として打ち

出しているのに、重点的に打ち出しているというように見えづらくなってしまおうというところがあり、少なめに丸を付けさせていただきました。

たしかに子育てのところは丸が少なく、記者会見等でも4つのみらいビジョンとして、各項目に関連した事業を発表しておりますが、今回の中では絞って示させていただきました。

B委員：

わかるのですが、メッセージとしてあまり力を入れているようには見えないかなと思いました。

例えばですが、二重丸と丸のような形で、子育てのところは二重丸、それ以外は丸で示すように付けるなど、せっかく色々やっているので推している雰囲気を出して、市民としてはそちらの方が伝わるのかなと思いました。

事務局：

ありがとうございます。

そちらの方は事務局でも検討させていただきます。

修正はパブリック・コメントの前か後かは第7回の審議会の際に説明させていただければと思います。

会長：

説明を追加すると、総合計画は横串だと思うんですよ。なのでなるべくマトリックスはかけた方がいいと思いますし、B委員がおっしゃったように二重丸等で表示を付けた方が多分良いと思います。

他にご意見はございますか。

C委員：

この計画は計画なので、計画がいっぱい載っているんですけど、じゃあこれを誰がやるのかっていうことで、運用の部分がないと思いました。

普通P D C Aとビジネスでは言いますが、計画を立てたらそれを進捗管理して、フィードバックして、そのサイクルを回すようなことをするんですけど、中を見ていくと、主管部署は書いてあるので、そこを主管課がやっていくんだなという印象はあるんですが、これがどのくらいの頻度で進捗管理がされて、公開されるんだろうかというところが見えないので、気付いたら2027年がやってきていて達成してなかったですよというのでは、やはり打ち手が遅くなってしまいます。

その進捗管理というのをどのようにやるのが1ページくらいあってもいいのかなと思いました。

事務局：

進捗管理につきましては、行政評価という形で行っているところが、つくばみらい市以

外の自治体でも多いのかなと思いますが、それぞれの実施計画と総合計画の中では、3段構成の1番下の各事務事業、事業単位で整理しまして、その評価を今度は施策評価、政策評価と整理しているものはございます。つくばみらい市はそれをホームページ等で公開までは至っていないですし、内部で評価をして、それを見直していくという状況にはなっているんですけども、できれば皆さんに見ていただくような仕組みを作っていくというのか考えておまして、総合計画の中でいいますと、目標指標とかみらい指標でお見せできるところもあるかと思いますが、計画期間でどういった評価をして、どういった形で見直しているかというのを、まだ定まっていないところではありますが、示していければと考えております。

C委員：

評価の仕方やタイミングは、年に1回とか2回とかのこのタイミングでやりますということや、組織体としての主管課があつて、最後につくばみらい市の組織図なんかがあつて知りたいことがあればここに聞いてというようなページがあれば、使える計画書になると思いますので、進捗管理とか組織体も含めて入っているといいなと思います。

以上です。

事務局：

長期計画になるので、機構改革や各課で行っている事業など変わってくるところもあるかと思うのですが、巻末資料は現在検討している部分もありますので、そうしたところで今のご意見を参考にして検討させていただければと思います。

会長：

私も同じ意見で、やはり計画のアクションの部分がないので、実は総合計画はそこが一番弱いところなんですよ。それをふまえても1枚くらいは付けた方が良いのかなと思います。そうしないと作りっぱなしになってしまうので、そうならないよう後のことが大事になるので作成した方がいいかと思います。

D委員：

チェックというのは一番大事だと思うんですけど、その際に文章論だと主観的な形になるので、できる部分でも数値化のように表しておく、比較的チェックはしやすいと思います。

事務局：

総合絵計画のなかで、改めて新しく数値を設けてという事は難しいと思いますが、それぞれの施策ごとに個別計画もございまして、それぞれに指標として、目標の数値を設けておりますので、全体としましては目標の数値を立てながら進めていく形になります。

現在行っている行政評価の中では、事業ごとに数値で目標を設けたりしながら進めているところなので、現在は皆様に示せていないので、分かりづらい部分かなと思いますが、

きちんとP D C Aは意識しながら進めてまいりたいと考えております。

会長：

今のご意見に付け加えるのであれば、総合計画の各指標に、ちゃんと進捗がどの程度かというのは、オープンにしていなければなと思います。もちろん数値ですから、うまくいくときもそうでないときもあると思いますが、それでもよくて、オープンにするというのが大事なのかなと思います。

他にご意見はございますか。

では、時間もございますので、質疑は以上といたします。

続いて、さきほど事務局から説明がございましたが、これまで総合計画策定に携わってこられた皆様から、一人3分ずつほどで意見発表をいただきます。それでは、E委員からご意見やお考えなどの発表をお願いいたします。

【委員ごとに意見発言】

E委員：

よろしくお願いします。

私は前回の総合計画の際にも携わっていたんですけど、それから見ると、今出ている素案はすごくわかりやすくなったかなというのが第一印象です。今言われたような進捗管理とかP D C Aというのは、多分課題なんだろうなと思います。前回の計画も作って終わってしまった。その後どうなったのかというのは全くノータッチですし、それは例えば進捗率なんかをホームページに挙げて、マイナスになったところは、これはどういう理由で遅くなったんだというのを市民に知らしめるべきかと思います。

もちろん公開できない部分もあるかと思うので、可能な範囲で公開していき、遅れている理由を載せておけば、もちろん着手しているがこういう理由で遅れているんだというのが分かると思います。

市民は行政が勝手にやっているという思いがあるので、最終的に行政は何もやってくれないという話に繋がってしまう。そうならないように今進捗率は何パーセントで、計画完了までこれくらいというのを示さないと分かりづらいと思います。今後は重点的にそこをやっていた方がいいかなと私は考えました。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、F委員をお願いします。

F委員：

よろしくお願いします。

私は高齢者の一人として、私たちを支える人が今つくばみらい市ではかなり少ないのかなと、今後どのように支えてくれるのかなという思いがかなり不安ではあります。そのた

めに自助・共助・公助をみんなで携われる機会や考えなおす機会を与えてくださったのかなって思っております。

そのうえで高齢者にできることって何だろうと考えたときに、子育てボランティアをやらせてもらっていますけど、なぜかという、小さい子、その親、その上、世代を繋ぐことが、私達を支えてくれる人たちを繋ぐことに繋がるのかなって思っております。

そして、今みらい平に新しく引っ越してきてくれる若い母親たちの評判だと、子育てに特化したすごく子育てしやすいまちだからという声を聞きます。自然が多いというよりも、その点で引っ越してくる人が多いという事を聞きます。

それだけではないのは分かっていますが、どれもこれも万遍には絶対いかないと思うので、一つ特徴を特化して、そこから横に繋がっても良いのかなと思います。

それこそ先ほどB委員がおっしゃったように、生涯学習から子育てのように色々と繋がっていけばいいと思います。

今、市民センター2階のおやこ・まるまるサポートセンターはすごく横に繋がろうとしています。私も少し参加させていただいておりますけど、健康増進課や私立の支援室なんかとも繋がろうとしています。

それを農業など、どこのポイントであれ横に繋がっていくこと、その機会を与えてくださったのかなと、先ほどもお話をさせていただきました。

色んなことをテーマに、最初は下から吸い上げていただきました。そこでいいイメージを創っていただきました。そして主管課から下にどのように落ちていったのかなというのをぜひ最後まで見せていただき、関わらせていただきたいなと思いました。

これがこうなったとか、これをこうしたらもう少し違う方向に行くのかなとか、私たちの声を拾っていただいて、話を聴いていただけて、こんなにも市民の声を一人ひとり聞いているところは他にないかなと思うので、機会を与えてもらい感謝しております。

会長：

ありがとうございました。では次に、G委員お願いします。

G委員：

よろしくお願いします。

私も、前回の審議会にも関わらせていただいた経緯もありまして、その時に比べてすごく分かりやすく、特に市民をまちのど真ん中に置くという言葉ですとか、本当に市民をまちの中心に置くつくばみらい市なんだなというのが分かる感じで、表現も柔らかく良いと思います。

私も高齢者ですので、このように意見を述べさせていただくのもありがたいですし、特に私のやっている環境関係は問題がとても大きくて、子育て支援などだと具体的に特化して見えるものがあるんですけど、環境はなかなかとらえどころが大きくて難しいなかで、緑の多いまちをつくるといっても、具体的にどうしていくというのがなかなか見えづらい部分でもあると思うんです。

ですけれども、手をこまねいていくということにもならないと思いますし、できること

を少しでも市の方が取り上げてくださって、今は地域推進課の皆さんとの風通しがよく、意見を持っていくところも分かりやすいです。

あとはこういう総論的になったところが、どこまで具体化されるかというところかと思えますけれども、いきなりはなかなか難しいとは思いますが、ただ、市の全体的なムードというか、そういったものが、頑張っている市を引き上げていこうというようなものに溢れている気がします。

今後ともよろしく願いいたします。

会長：

ありがとうございました。では次に、H委員をお願いします。

H委員：

どうぞよろしくをお願いします。

まず、この計画書を読ませていただいたときに、この審議会、ワークショップ、また各行政内で行われている委員会、それぞれの意見を取り入れていただいている、決して行政中心ではない、皆さんで作ったものだなというのはとても深く感じています。

ここはゴールではなくスタートだと思っておりまして、その時にまず出来上がったものをどのように市民にPRしていくのか、冊子を一冊ずつ渡していただくのか、せめて「わたしたち市民にできること」だけでもどのように市民に伝えていくのかというのがまず疑問に思いました。

それと同時に、先ほどから出ているとおりにここからスタートなので、いかにして、PDCAについて考えていくかが大切だと思います。

こちらも提案しているのですが、私が提案しているのは、ここにいる審議会委員の皆さんはこれまでの経緯と中身を知っていますので、その方々が1年に1度行政と中心となって、こういう事をやりました、それに対してどうなりました、「わたしたち市民にできること」が全然伝わっていないよね、どうやって皆さんに伝えていこうかというのを、具体化していければと思います。

本当に市民と一緒に作りあげてきたものですから、いかに市民と一緒に協力して、産まれたばかりの赤ちゃんからご高齢の方々まで、全ての方々が心をつなげて、これから進めていくというものができると、作りあげたまでの経緯が活きると思うんです。

私は本当に皆様を作りあげたものは素晴らしいと思っていると同時に、これからスタートでこれから5年の間にどこまで実行できるのか、次の見直しの際にどこまでいけるのか、それと毎年ものすごく大きなサイクルで動いてますが、これまでの数年の中で大災害やコロナウイルスなど大きな事が起こっています。今後、計画が全てでなく、時代に合わせて柔軟に対応すべきものがあればそこに進路を変更することも必要なのかな、それが市民の幸せに繋がっていくことじゃないかなと思いました。

どうぞよろしくをお願いします。

会長：

ありがとうございました。では次に、I委員お願いします。

I委員：

よろしくお願いします。

まずこの総合計画の審議会委員になって、色々見えなかったものが見えるようになって、私個人としてはいい経験をさせていただきました。

そして全体を見る中で、私もわからない部分は多々あるんですけども、商工会の目標指標とか色々見てですね、率直な意見として、今更なんですけども、目標が低いと思ってしまいました。これは2027年の目標値なので、商工会会員数が現状800人で、目標820人ということで、いろいろ人口が減っていく中で増やすのは難しいかなとは思っているんですけども、もう少しできるのではないかというのは、最初に見た率直な感想でした。

これは全体的に、これが行政と民間の差であり、違いなのかと感じた部分ではあります。現実的ではあるんですが、目標として注力する部分としては数字的に低いのではないかなと思いました。

先ほどH委員もおっしゃられてましたが、総合計画というものの自体、職場で少し話を出したんですけども、知っている人は1人だけでした。実際地元の人が多い場、かつ子育て世帯でありながら、20人くらいのうち1人しか知らないというのが現実なのかなと思います。

先ほどのように作ることがゴールじゃないので、これをどうやって市民の方に伝えていくか、私も伝えていかなければならない立場にあると思うんですけども、これからがスタートなのかなと思いました。そのあたりについても、今後話す場があったらいいなと思います。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、J委員お願いします。

J委員：

福祉関係が一番携わっている部分なので、一番重きを置いて見てしまうんですけども、今までも民生委員をしていましたが、ずいぶんと進歩はしているなと感じております。

最初に始めた頃に比べると、緊急通報システムなど色々進歩しました、さらにこれで良くなっていったらいいなと思います。

進捗率のようにどれくらい達成できたかという話にもなります。総合計画審議会以外でもいろいろな委員会があります、例えば公共交通だと委員会の中でこういう風になっていますという報告があります。なので年に1回くらいはそういう進捗の報告はあってもいいのかなと思っています。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、K委員お願いします。

K委員：

学校教育の充実のところの話をさせていただきたいと思います。

51ページ目標指標4の「中学校の適正配置」、これはみらい平に学校を作ると決めたので1校としているだけで、複式学級が発生する可能性のある小張のようなところの適正配置に全く触れていないんですね。間違いなく小張が近々複式に入る。そこに関して全く触れていない。「新しい学校ができるよ」という事だけを書いている。これはもう作るのが決まっているので、ここに目標と書かなくてもいい話だと思うので、ここは役所的だなという感じがしました。

もっと地域の声を恐れなくて、複式になったらこうしたいとか、複式になっても特色を出す学校を創る、もしくは統合するといったところも謳ってもいいのかなと思っています。

陽光台小学校と富士見ヶ丘小学校に関しては既にマンモス校になっていて、それ以外は既に定員割れに近い状況にあるので、もっとそこに踏み込んだ書き方をしてもいいですよ。小規模校だけではなく、大規模校も困っているんです。

この時期、各学校は秋祭りをPTAが主催となり本当に頑張って開催します。富士見ヶ丘小学校は1000人を超えた児童数で開催するのがすごく大変な中開催していますし、苦勞をしながらやっている。伊奈小なんかは、かたや270人程度の規模なので、そこまで苦勞はしませんが、それでも15くらいのブースをつくれれば結構な充実感があります。

色んな課題を抱えているなかで、今更言われてもという意見もあるかと思いますが、私はずっと言い続けていたので言わせていただきますけど、そういったところはあるかと思っています。

あともう一つ、教職員の働き方改革による一人ひとりの子供たちとも向き合う時間の確保とあるのですが、これはあくまでも働き方改革で、授業数を短くして、3時くらいには下校する、4時間授業を推進するような形だったと思うんですね。それで、子供と別に向き合うのではなくて、先生はただ早く帰るだけなので、一見きちっとしてるんですけど、全く矛盾する書き方はいかがかなと思っています。

教育長とも話したんですけど、働き方改革で6時間授業をなくすから子供たちと触れ合えると言うんですけど、先生たちは残業をしないで早く帰るようにするんで、別にふれあいは変わらないはずなんです。だからそこは一緒に書かない方が私はいいと思います。

なので、「教職員の働き方改革をします。」「子供たちとさらに先生は向き合います。」って別な書き方をしてほしいんですね。「働き方改革をやるから向き合います」ってわけではないという感じがすごくしますので、一緒にせずその辺よろしくお願いします。

あと最後に、この2年、3年コロナになって、非常に公立学校が各校ぐちゃぐちゃになっています。

オンライン授業という形でやりはじめて、得意な先生がいる学校はなんとか乗り越えられる。得意な先生がいなければボロボロの状況。ずっと自習をさせているのと同じなんです。

ですから、最近私もみらい平に勤務しているので朝見かけるのですが、私立の学校に行かれるお子さんの行列がすごい増えているんですよ。公立じゃ任せられないという考えがすごく増えて、私立や県立もあるんでしょうけど、そういう学校の受験にシフトしている傾向が、朝通るだけでわかる人数の増え方をしているのです、もう少し公立学校というものの考え方や魅力を出していただくようにしていただくと助かるなと思います。

長くなってすいません。以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、L委員をお願いします。

L委員：

今回総合計画に関わらせてもらったんですけど、正直市内で農業をやっている身としては、興味がないわけではないんですがほとんど知らなくて、今回関わらせていただいて、いろいろやっているんだという感覚で参加させていただきました。今こうして素案もできてきて、発言する機会もあって、市に携わらせてもらっているという感覚がありまして、農業に対しても自分の意見を発言出来て、反映もさせてもらったりして、我々農業のやっていることは軽視されているという訳ではないんですが、人が知らなさすぎる部分もあるということで、そんな中で市民と衝突することもあるので、そういうことが新しく来た人などにも伝わって仲良くやっていければと思います。

あとは1年のサイクルはすごく早くて、スマートインターなんかもできて状況って変わっていくものだと思います。人も来るでしょうし、そこに農業や商業などもっと関わっていく中で、ここからがスタートということで、また今度第3次の時にはどうなっているのかというのにも気になるところです。今回関わらせていただいたことで、自分の市に対して少し意見が深まったというか、農業の分野でもっと市に関われることをしていけたらいいなと思いました。

今後も一市民として色々やっていきたいと思います。いいきっかけになりました。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、M委員をお願いします。

M委員：

素案については今までやってきたので、私はもう少し広い目線での意見でいいのかなと思っています。個人的には非常に期待している事と、やってほしい事2つがあります。

1つは、ここ5年でつくばみらい市になくて、近隣市にはあるものっていっぱいありますよね。具体的にはイオン。取手はディズニーランドくらいのイオンができますという話があって、近隣でないのはつくばみらい市だけなんですよね。守谷もあってつくばもあって。

逆にそちらになくてつくばみらい市にあるものって、田んぼやお米は非常に強いと思う

んですよ。クボタ・イセキなど。私も商工感謝祭に行ってきた、子供はトラクターにずっと乗っていてすごく楽しそうにしている、親はお米もらえて嬉しくて、これってよくみたらつくばみらい市にしかできないんじゃないかと思います。米4種類食べ比べなんて出来ないし、ああいう環境があるというのは非常に強みなのかなと思います。

なので、近隣と比較して、特にこの5年間でうちができるものはあるのかと、多分つくばみらい市にできてほかにないものって、道の駅ができるのであれば、今龍ヶ崎がやろうとしてできていないというのもあるので、地の利を活かせるのは強みなのかなと思います。

そして日清の工場が福岡工業団地にできるとか、そうしてみらい平以外のところが栄えてくると、みらい平だけがとかそういった声もなくなってくればいいのかなと思います。

自ら稼ぐというところでは市内のお米は市内で食べるとか、そうやって循環していけばいいのかなと個人的には期待しています。

あとは、私も小さい子がいるので、小学校のところはもう少しプッシュしてほしいなど正直思っています。うちは富士見ヶ丘なんですけど、児童が多くてプールは3回しか入れなかったという話もあり、かたや複式の学校の話もあり、もっとぶっ飛んだことを考えてもいいのかなと思うんですよ。例えば、「伊奈に行きたい富士見ヶ丘の人手を挙げてください、住民税2割カットしますよ。」みたいな感じです。複式学級はやめてあげた方が子供たちのためなのかなと思います。

子供が増えて地価上昇ランキングトップですといいつつ、子供が来たら小学校が無いというのは避けたいなど。なので、いよいよみらい平だけではなく、つくばみらい市全体でやっていく時期が来たのかなと、個人的にはすごくわくわくしています。

なので、今はみらい平が中心になっていますけど、これが小絹だったり福岡だったりというところがまとまってくると、より一層強い市になってくるのかなと思います。

本当に個性的なまちで、工業も農業もあってなんてなかなかないと思うので、これを活かしていけるような市政を心から期待したいなというところと、あとは小学校のところは正直に開示した方がいいのかなと思います。

私からは以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、N委員お願いします。

N委員：

私は今回の総合計画から関わらせていただきまして、今までこういう計画があったことも全く知らなかったなので、大変貴重なことを教えていただいている機会だと思って感謝しております。

大きく2つのことについてお話させていただきたいと思います。

1つは女性の立場ということで、子育て世帯の女性の立場ということで、こちらの現行計画の冊子の表紙に「しあわせと笑顔あふれるみどりがつなぐみらい都市」と書いてあって、人に対する幸せがなんだか考えたときに、生活、営みが充実していることだと私は考えてました。

例えば子供がいる立場で考えますと、ここの施策に載ってきてるのは、49ページからの施策12、13、14のあたりかなと思うんですが、これは施策12だと基本的には乳幼児を育てている方に関わってきて、子供が小学校に入ると施策13に入って、さらに14の青少年健全育成というように、流れは分かるんですけど、乳幼児が小学校に上がった後の女性の立場からすると、ここがブラックボックスになっていてなんの政策からも見えないんですね。

要するに、もっと働きやすい場所のように、つくばみらい市で子どもの側で働きたくても、電車を使って都内に行っている現状や、自分の特技を活かせるような環境がつくばみらい市には今全くないんです。

家庭の中の女性の立場って結構強いと思うんですよ、そういう人達が生き生きして、生きがいを持っていけるとなると、お母さんが笑顔なら子供も笑顔になって、地域も幸せになると思うので、もう少し女性が活躍できるような政策がみえてくるといいのかなと思います。

あとは教育業をしているので、教育に関しては細かい点を突いて申し訳ないんですけど、先ほど、K委員がおっしゃっていたように、教員の働き方改革の話を全く知らないでこの文章を読んだときに、51ページの目標指標5番目で、教員の1か月の超過勤務を45時間以内にするを書いてある傍ら、一人ひとりに向き合う時間をつくるというのはいさぐい相反することが書いているなど純粋に思い、これは不可能というのはいさぐい見え見えで、良い言葉だけは並んでるなというように思いました。

あと1つ、豊かな心と健やかな体の育成というところで、栄養バランスのとれたおいしい給食もそうなんですけど、心豊かの部分が抜けていると感じました。精神衛生という部分はとても大事なことで、心の部分はもう少ししっかり記載があると良いと思いました。不登校になったこと前提で、不登校の復帰率60%と書いてありますけど、今は不登校になった子のマイノリティを尊重して、学校に行かなくてもいいという、出席数を補おうというサードスペースの考え方が児童福祉の観点からも主流なので、そこがすごく取り残されているなと思っています。もっとサードスペースを活用して、出席の代わりになるというのは、他県ではそういうシステムに移行しているので、ぜひつくばみらい市でもそういったところができるといいなと思います。

最後に21ページの施策体系で丸が付く付かないのところですが、子育ての項目の丸が少ないのではないかとこのところは本当にその通りだと思います。児童福祉という言葉があるなかで、健康医療福祉のところには丸が無いというのは、例えば、障がいのある子供を持つ親がこれを見たときに、うちの子供は子育ての中には入らないのかって思うくらいショックなことだと思うので、福祉のところには丸は入れるべきかと個人的には思いました。

会長：

ありがとうございました。では次に、O委員お願いします。

O委員：

今回こういった形で総合計画の方に携わることができて感謝しております。ありがとう

ございます。

私からは、先ほど I 委員もおっしゃっていたんですけども、目標値が低いところがあるのを感じておりました。私自身が以前企業誘致に関わる仕事をしていて、31 ページですが、今度茨城県の方で新しく福岡工業団地を創っているということで、多分この目標数値自体は問題なく達成できると思うんですけども、つくばみらい市内の製造業や物流業をヒアリングでまわった時に、「移転・拡張したい」だったり、「増設したい」というニーズはあるんですけども、市の方からできないという意見を言われているという話があったりとかして、動こうとして動くような目標が低いのではないかなと思いました。

つくばみらい市というポテンシャルがあれば、もっと動こうとすればできるのかなとは思いました。

後は、これもコメントがあったんですが、「わたしたち市民にできること」というのを大々的に書いていただいているので、書いて終わりではなくて、作った後にこれをどのように PR していくかが重要だと思います。やっぱり私も家族や隣人に、こういった会に参加しているというのをいっても、何ですかそれという反応が多いので、そういったところは今後の課題なのかなと感じました。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、D 委員お願いします。

D 委員：

最初に少し謝りたいと思います。先ほど数値が無いと言いましたけど、目標値というのがあったので、そういう意味では認識が少し違っていました。

ただ少し、成り行きの数値、先程おっしゃられた事もあるんですけど、要はここに持ってくる数値は成り行きだけではなく、どういう知恵だとかブレイクスルーで持ってくるかという点が大事だと思うんですね。

だから目標値の設定そのものの部分なんですけど、それをどういう格好でやるかという、集団的な形も取組方針にそういう知恵みたいなものがあるといいなということだと思うんです。

あとこういう低成長時代になりますと、自助・共助・公助というなかで、成果主義ばかりが強くなるし、役所の場合は公助というか、全体で突出なく万遍という部分があるので、なにをもってブレイクスルーするかというと共助だとか、私は年金生活で比較的余力があるので、いかにそのあたりをデザインするかという事だと思います。ライフデザイン、いわゆるまちづくりのデザインで、1つは土地利用のハード面がきて、次にライフデザイン、個人個人の育成だと思うんですけど、そしてそれをソーシャルデザインとして組み合わせるといって、これは非常にいいストーリーだと思うんですけど、ソーシャルデザインの部分が少し弱いかなと思います。

要するにうまくこの辺を活用しないと、なかなか難しいのかなという気はしていて、では一体なんだと言われると難しいんですけど、なかなか役所ではそこまで踏み出せないところ

ろ、逆に個人個人でやっていこうかという意欲的な部分、そういう部分をうまく制度化という形で、第3セクターのような形で行っていただいとというような事が、1つのヒントかなと思うんですけど、あまり具体的ではないんですが。

いずれにしても、良い意味のこれがつくばみらい市のスタートラインにいかにしてつけるかというのが、今回の総合計画の大きな肝になるのではないかなと思います。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、C委員をお願いします。

C委員：

お疲れ様です。食の流通で皆様とつながるとい事業をやっています。SDGsでいきますと、住み続けられるまちというのが一番大切かなということでやっています。

こういった計画を作ると、作った側の思いは入っていますが、配られた側はそれを腹に落とすというのが次のステップとしてあるんですけど、サッと流されてしまうと他人ごとになってしまうというのがあります。行政の方が作るとお役所が作ったという感覚になってしまうし、今回みたいに皆で作らあげると、行政側がこんなに高いハードルにしてしまって困るといこともあるかもしれないですし、どちら側にも振れる可能性はあるんですよ。

つくばみらい市の職員は350人くらいですかね、人数的にリソースがあるので、これが各課に振られたときにできるかという問題があるかだと思います。その部署の実力以上にリソースがいるところもあると思います。この2027年までの間に思わぬことがあって、ここの部署はもっと力を入れなくてはいけないという事があつたら、リソースをどう調整していくかというの、これをマネジメントするリーダーのような中心になる方が人事権を持っていたり、思いを持っていないと動かせないと思うんですね。中身が詰まっていれば立派な計画にみえてしまうかもしれませんが、シンプルでわかりやすく、これだけはやろうという内容のものでも良いと思うんです。これをやろうと思ったところに気持ちが入って、達成できるというのが一番かなと思います。中にはここに書いていたのに無理そうだといものも多分ありますよね。そしたら代わりにこういった案も考えてみましたとか、自分たちで考えられなかつたら、皆さんもう一度集まっていたら考えてられないでしょうかともいいかもしれません。

短期で取り組むものではないので、これを作り上げていく職員の皆さんも市民の皆さんもモチベーションが下がらないようにみんなで楽しく、ポジティブになるような運用をしていただければと思いました。

以上です。

会長：

ありがとうございました。では次に、B委員をお願いします。

B委員：

今回参加していて感じたのは、全体的に非常に明るい雰囲気で見聞交換できたなということで、おそらく集まっている委員の人数がすごく良かったのかなと感じています。他のところで議論しているなかでも、こんなにたくさん意見を出せる雰囲気で行けるといえるのは素晴らしいなと思いました。

明るいトーンで議論できたのは、つくばみらい市がまだ人口が増えていたりとか、新しい産業があったりとか、全国的には厳しい状況のはずなんですけど、そのなかでもまだ成長の気配がたくさんあって、ポジティブな種がたくさんあるところで議論できたからかなと思っています。ただこれが5年後10年後にはもう少し厳しい状況になっていると思っていた方が良く、そのあたりの課題感や切迫感をもった議論が、私もあまり出せなかったですし、そこが次の大きな課題かなと思いました。あえて暗い事をいうとそこだと思っています。

あともう1つが、先ほど教育関係の部分で出していただきましたが、やはり地域の違い、格差という言い方をしたくないので、あえて違いや特徴という言い方をしますけども、そこに正面から向き合いきれなかったかなと、もう少し議論する場を作れなかったのは課題だと思っています。すごく人口が増えているところと減っているところの間を平準化するとか分けるという事だけではなくて、特徴やそれぞれの良さを生かすような方向で考えていくことができると思うので、そこはぜひ次の計画には必ず反映していただきたいかなと思いました。

最後に、分野間の連携についてはもう少し議論したいですねというのもお伝えしてはいたんですけども、そこもしきれなくて、もっと高い目標を書けたかもというところや、分野間の連携でもう一歩上に行けそうな事って議論の中でもあったのかなと感じていて、そこも次への課題ということで検討していただけるといいかなと思いました。

全体としては皆さんの意見満載の良い計画にはなっていると思うので、あえて課題のところだけお伝えしたいと思います。

お疲れ様でした。

会長：

ありがとうございました。では最後に、A委員お願いします。

A委員：

私からはテクニカルな面を2つと、概要的な面を1つの3つお話したいと思います。

1つは、総合計画の中で基本構想と基本計画と実施計画、3年ごと、年度ごとのローリング、従来の構想というのは看板みたいなもので、世の中が動いているなかで一番大事なのは、実施計画の1年ごとのローリングというのが大事だと思うんです。ですから常に世の中動いている中で、計画が柔軟に、政策が柔軟にしていくことだと思っていますので、そういう意味では、実施計画をローリングしながら、柔軟な政策というのは大事かなと思いました。

2つ目は、大澤会長が最初に言ったように、基本計画というのは横串だと思うんですよ。

この横串に3本ほど刺してほしいものがあります。少しずつは触れていますが、1つは国から仰せつかっている「まちひとしごと総合戦略」ですね、それと最近話題になっている「ダイバーシティ」、それと、またこれも最近話題になっている「SDGs」。これを総合計画の構想や実施計画の中に、刺して欲しいなと思います。これは調整するのが難しいんですけども、ここにこういう取組みを盛り込むことによって、一つひとつが生きてくるのではないかと思ひまして、あとから出てくる取組みや考え方なんかは総合計画にきちっと盛り込んでいった方が、総合計画が実のあるものになっていくという感じがします。

3つ目は本当に概念的な話なんですけども、先ほど皆さんの意見を伺っているとダイバーシティといいますか、多様な意見があって、私自身気が付かないところもありまして、これは行政の市の皆さんもそう思ったかもしれません。こんな意見があるのかと気づきがたくさんありました。こういう方たちがいればつくばみらい市はますます明るくなるなと思っています。私が思う総合計画というか構想というのは、レイモンド・チャンドラーというアメリカの小説家が有名な言葉を発しています。「タフでなければ生きていけない、優しくなければ生きる価値がない」そして私は「楽しくなければ生きる意味がない」というのを付け加えて、構想というものを考えております。まちひとしごと創生会議では、東京一極集中あるいは人口減少、少子高齢化が叫ばれていますが、ただ人口が増えればいいというものではないのではないかなと、住んでいる人が楽しく生活の質が高まるということですね、それを幸せというのかもしれないんですけども、そういうのを考えていかなければいけないと思ひました。

以上です。

会長：

ありがとうございました。

皆様から意見をいただいてまとめていたんですけども、まず具体的な質問、学校のところは確認した方がいいなと思いますので、事務局では適正配置や働き方改革のところについてぜひコメントをお願いします。

あとは目標ですね、もう少し強気でもいいのではないかとのご意見もいただきました。

事務局：

ありがとうございます。

皆様のご意見を聞かせていただきまして、計画書の中にもまだまだ不完全な部分が多々あるかと思っております。

教育の部分ですとか、制度の設計の部分は持ち帰り確認検討させていただきたいと思っておりますけども、スケジュールとして、今後パブリック・コメントの実施も近い時期になりますので、それまでに修正がまとまり、皆様にご紹介するのは難しいかと思っておりますので、パブリック・コメントの意見とあわせて、第7回の審議会でご紹介させていただければと考えております。どれくらい修正ができるかはこの場では断言できませんが、検討させていただきます。ありがとうございました。

会長：

ありがとうございます。

複数名の方が気づかれている箇所なので、やはりきちんと対応した方がいいのかと思います。順番はパブリック・コメントの前でも後でも構わないと思いますが、真摯に対応するというところは大事かと思いますが、ぜひお願いしたいと思います。

K委員：

パブリック・コメントも前に、働き方改革のところは直してから出した方が、私はいいと思います。

このまま出して、意見が多く上がってくるよりは、直してから出した方が絶対いいと思います。このまま出したら仕事が増えるだけですよ。

会長：

それでは皆様からご意見いただきまして、総括というより、クロストークではないですけど、意見を伺ったうえで追加の意見があればお願いします。特に最初の方なんかは一周してきましたので、なにかご意見があれば。

M委員：

やはり21ページの丸のところ見てるんですけど、子育てのところは健康福祉など4つくらいは丸を付けたいですね。一番下の行政広報3つ付いていて、広報なんて市が頑張ってます風に見えちゃわないかなと思います。

子育て教育、健康福祉って主役は人じゃないですか。他は土地とかありますけど、人が主役のところはやはり4つくらいはついた方が良くないかなってしますね。二重丸一個というよりは、丸が4つとかの方が力入れているというように見えます。

事務局：

ありがとうございます。

こちらの丸印は多い方が重点的に取り組むものではないというところをご理解いただいているとは思いますが、感じ方というところで、人によってとらえ方も違ってくるかと思いますが、参考とさせていただきます。

子育てのところは言ってしまうと全ての政策に関連するところなので、全てに丸が付けられてしまうんですが、整理していきたいと思います。

C委員：

時間があるならば、今まで一緒に作りあげてきた市の職員がどう感じているかを聞きたいのですがいかがでしょうか。

事務局：

現在、つくばみらい市の予算を立てているところなんですけども、その際もこの4つの項目は意識して、どの項目に結び付くかというのを意識して立てている状況でございます。ですので、子育て施策や学校の担当課だけが「子育てや学校」に該当するものを作っているわけではなく、例えば建設課でも通学路の整備などの子育てに関する事業もありますので、本当に色々な部分で関連してくるものだと感じております。ただ、見え方としまして、全部の項目に丸がついてくるようだと、丸をつけてる意味がないというご意見も出てくるかなというところを考慮しまして、少し絞らせていただいております。

皆様からご意見をいただきましたので、改めて検討させていただきたいと考えております。他にもご意見ございましたが、施策体系については以上でございます。

会長：

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

K委員：

私実は最後までこの会議がピンと来ていないんですよ。なんでかなとずっと考えていたんですけど、企画政策課とやりとりしているじゃないですか。でも私が色々思っているのは担当課に対しての考えがあったので、担当課全員呼んだらおかしくなってしまうのかと思うんですけど、ここがこう思うと言ったときに、企画政策課はとりまとめ、現場の課の人がそうですよねというやり取りができると、私は伝えているつもりでも、実際は何をしに来ているのかなという思いがあって、全体を取りまとめている人にこの課はこうなんだというように話している感覚があったので、そこをうまく工夫していただけると、一回企画政策課を飛ばすじゃないですけど、直接伝えるような事があると、ここの部分ももう少し具体的になったのかなという感じがしました。

事務局：

ありがとうございます。

第4回の審議会では、ZOOMを介してではありますが、担当課と委員様とで直接ご意見を交わせるような回を想定していたのですが、その準備していたものが台風で生憎できなかったということで、その後の審議会ですとタイミングが合わなかったこともあり出来なかったというのはこちらも残念ではございました。

皆様からいただいたご意見は全て直接というわけではありませんが、オンライン等で共有し、その中で修正する箇所は一つ一つ意見を交わし担当課の意見も聞きつつ修正方針は決めてきたところでございます。

こちらとしても全てのご意見を伝えたいと思っておりますが、計画書の中に全てを反映できなかったところはございますが、今後の施策や事業で取り組んでいければと考えております。

K委員からのご意見も、事務局で気づかないご意見を色々いただいておりますので、担当課には今回も伝えさせていただければと思います。

会長：

総合計画の立て付けとして、自治体によっては部長等が参加するところもあるんですが、そうなってくると大人数になりますし、各項目は数分だけなので、このような形で間接的にお伝えするという形になってますので、ご理解いただきながら、一方で先ほど事務局から発言があったとおきっちりつなぐということですので、お任せするというご願ひいたします。

E委員：

最初にもお話したんですけど、前回も参加しまして、それは2018年ですね。その時の計画で何が実行されているかなと思ったときに、道路を作るというのは決まっているものだろうから、福岡工業団地ができましたくらいしか実感として思えないんですよ。なので、極端なことをいうと、総合計画って結構立派なものができるので、最初に言ったようにちゃんと進んでいるのか、そしてこの中でどんどん変えていくというようにしていった方が僕はいいのではないかなと思うんですよね。毎回同じように出して、どれだけ進んでいるのか、今回だとおそらくスマートインターチェンジができましたというのが大きなものになるかなと思うんですよね。あとは学校が統合されましたという話なんですけど、そもそものやり方というのを変えてもいいのではないかと思います。

今言われているように、じゃあ、前回もそうでした、うちの前にバス通せとか色んなことと言っている人がいるんですけど、そんなのこの場で言われても駄目だという話になると、総合計画のもう一つ下の段階で、各部署の段階で市民が話をし、意見を出すという、そういうところを作ってあげれば、市民の声を吸収することができていくんじゃないかなと思うんですよね。

それが2回関わったことですごく感じたことです。

事務局：

ありがとうございます。

総合計画は長期計画として立てたので、どれくらい進捗しているかとか、どういった事業をやっているというところをお伝えできている部分はだいぶ少なかったかなと思っております。

昨年から広報で「政策情報版」というものを作成しておりまして、総合計画を立てた中でどれだけ取組みを進めてきたのか、実際どういった事業をしているのかというのは、政策情報版の方でも、例えば子育ての分野でこういったものをしていますとか、産業の分野でこういった取組みをして、こう変わりましたとか、こういった事業が新しく始まりましたとかをできるだけ表したいと考えておりまして、今年度もだいたい2月末から3月初めくらいに政策情報版というのをお送りできるように準備を進めているところでございまして、そういったところを参考に市の事業を感じていただければと思います。

この後の次第のその他で市の取組みを少し紹介させていただきたいと思っておりまして、Twitterなど出せる情報を増やしているところではありますが、積極的に出せるようにしていきたいと思っております。

M委員：

今回配布してもらっている市の取組みの紙は、広報誌などには差し込めないんですか。

事務局：

後程お伝えしようと思っていた部分なんですけども、本日テーブルにご用意させていただいた資料なんですけど、左上に「市の取組のご紹介」と書いてある資料を配布させていただきまして、そちらをご参照いただければと思います。

こちらは審議会のなかで色々ご意見をいただきまして、それぞれに関連するような内容で最近取組の始まったものなどをピックアップして今回ご紹介させていただければと思います。用意した資料でございます。

例えば1番左上ですと、意見交換のなかで、市の施設がどこにあるかわからないとか知られていないというご意見をいただきました。それに関連してなんですけど、今月、市の行政情報をまとめた「くらしのガイド」を更新し、市内の全世帯へ配布を行っております。市内に住まわれていらっしゃる委員の中には、すでにご自宅に届いていらっしゃる方もいるかと思いますが、改めて市の施設や行政サービスで知らなかったことなどもあるかと思っておりますので、ご参考にしていただければと思います。

他にも同様に、新しく作成した直売所マップ、ゴルフ関連の取組み、大澤会長・藤井委員にもご協力いただいている高大連携事業など、参考情報としてご用意させていただきましたので、ご覧いただければと存じます。

また、最近きらくやまプロジェクトというのを進めているんですけども、温泉施設利用というだけではなく、もっと色々な方に利用してもらえるようなものとして、もっと使っていただけるように、職員中心にアイデアを出し合って進めているプロジェクトでございます。QRコードの先に現在行っているクラウドファンディングのページがありまして、現在寄附を募っている状況でございます。市外の方などにご紹介いただけますと幸いです。

今まで色々ご意見をいただいておりますので、それに関連して紹介できないかと思っております。用意させていただいた資料です。市のTwitter等でも出している情報ですが、改めて紹介させていただきました。

会長：

ありがとうございました。

他にご意見が無いようでしたら、意見発表は以上といたします。では、私の方で大きく整理していきたいと思っております。

1つは、本日皆様から3分間ご意見発表していただきまして、進捗管理のところはローリング含めてぜひご一考いただければと思います。

2つ目としては、市民との共有の部分です。これは難しいんですけど、タッチポイントをいかに増やしていけるかというところをぜひご検討いただければと思います。

あと3つ目なんですけど、環境というのはとても時間がかかるんですね。一方で世の中

スピード感があって、これをすべて一緒くたに入れるというのは大変難しい至難の業なんです。そういう意味で総合計画の意味だとか、少しずつ変わってきている、まちひとしごと総合戦略の委員会があって、その整理はつくばみらい市だけではなく、多分全国的に求められているので、そこは考える余地があるのかなと思っています。モチベーションが下がらないというところは、作って終わりではなくて、進捗管理をお願いしたいと思っています。

あとは、総合計画とはいえ普遍的じゃない、違いとか特徴、これはまったくそうだと思いますので、これはつくばみらい市の強みかなと思いますので、全部同じにするのではなく、それぞれの個性を引っ張る計画を今後作っていただければなと思いました。

最後になりますが、私も委員会に参加させていただいて、A委員がおっしゃったように、新しい意見も沢山ありましたので、勉強させていただきました。皆さんに御礼を申し上げます。ありがとうございます。

それでは、本日の議事は以上で終了となります。

ここからの進行は事務局をお願いします。

4. その他

事務局：

大澤会長、ありがとうございました。

それでは「次第4 その他」としまして、事務局から説明させていただきます。

事務局：

その他では、今後の予定についてご説明させていただきます。

まず、最後となります次回審議会につきましては、令和5年1月23日の月曜日、時間はこれまでより早めの、午後1時30分からを予定させていただきました。場所は、本日と同様、市民センター4階です。

次第3の説明の中でも少し申し上げましたが、12月12日から約1か月の期間を設けて、パブリック・コメントの募集を行い、市民から広く意見を募ることを予定しており、第7回審議会におきまして、その結果をご報告させていただく予定でございます。

また、第7回審議会におきましては、市長から審議会への諮問の「答申」についても、ご審議いただくことを予定しております。

お手元に、「第2次つくばみらい市総合計画について（諮問）」と標題のある資料をご用意いただき、総合計画冊子の154ページ、155ページをお開きください。

令和3年8月24日の第1回審議会におきまして、市長から審議会へ「第2次つくばみらい市総合計画の策定に関する審議」の諮問がございますが、総合計画冊子がございます前期基本計画と同様、答申をご提出いただくものでございます。答申につきましては、これまでの審議会や本日皆様からいただいたご意見等を参考としまして、会長と事務局で案を作成させていただきたいと考えております。

その他の説明は以上でございます。

事務局：

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がございますでしょうか。
ご質問が無いようですので、質疑は以上といたします。

5. 閉会

事務局：

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

これをもちまして、第6回つくばみらい市総合計画審議会を閉会いたします。長時間に渡ってご審議いただき、ありがとうございました。